

産業競争力会議（第 27 回）後の  
石原経済再生担当大臣記者会見要旨

- 日 時 : 平成 28 年 5 月 19 日（木） 19 : 45 ~ 19 : 55
- 場 所 : 中央合同庁舎 8 号館 1 階 S 101・103 会見室

1. 冒頭発言

本日の「産業競争力会議」の概要を申し上げます。  
「日本再興戦略 2016」の素案を議論しました。

民間議員の発言をご紹介します。

- ・ 第 4 次産業革命の実現を進める上で、司令塔の設置は重要。
- ・ 規制改革会議とも連携して、規制・制度改革や行政手続きコスト削減はスピード感を持って進めてほしい。
- ・ 第 4 次産業革命の実現に向けて、研究開発投資促進の観点から、第 5 期科学技術基本計画も重要。
- ・ 政府全体として、複数の戦略の様々な施策について、国民にとって全体像をわかりやすく示すことが重要。
- ・ シェアリングエコノミーについては必要な規制を行いつつ、推進していくべき。
- ・ IT の利活用を推進すべき。プログラミング教育の必修化が盛り込まれたことを高く評価。
- ・ 長時間労働是正は、いまずぐに取りかかることが少子化対策にとって重要。人口構造の変化を踏まえれば、今取り組まなければ、手遅れになる。最後のチャンス。
- ・ コンセッション、PFI といった公共サービスの民間開放や特区など、地域で出始めている芽を全国に広げていくべき。

それらの発言の後、最後に総理から以下のような発言がありました。

「成長戦略第 2 ステージの鍵は、第 4 次産業革命の実現。スピード勝負で改革に取り組むため、司令塔として「第 4 次産業革命 官民会議」を設置する。まずは、3 つの重点課題に取り組む。有望分野を特定し、データを共有・活用するプラットフォームの形成を促す。

技術革新の動向を踏まえ、規制・制度を改革する。第4次産業革命の時代を勝ち抜ける人材を育成する。第4次産業革命を新たな成長のエンジンとして、GDP600兆円を実現していく。」

とのことでした。

この後、与党内の議論もいただきまして、「日本再興戦略2016」を月内に取りまとめるべく、作業を進めます。

私からは、以上です。

## 2. 質疑応答

(問) 今日の成長戦略の素案では、規制改革のところで、新たなメカニズムの導入や行政コストの削減というものが入っていますが、いわゆる岩盤規制改革については、ある程度目途がついたので、こういうものを今後やっていこうということなののでしょうか。規制改革の在り方に対する大臣のお考えをお聞かせください。

(答) 私の担当ではありませんが、今日は規制改革会議で答申がとりまとめられました。規制改革会議の設置期限は今年の7月で切れてしまいます。これまで岩盤規制というものに取り組んできました。しかし規制改革というものはすぐに結果が出るものばかりではありません。一つの例を出すと保育所の認可基準について、これだけのことをやるのに大変なエネルギーを費やしたという話もありました。それを引き続いてやっていかなければならない。会議の委員の方からも「新しい形にするにしてもこういうものは続けていかなければならない」という意見があったということです。

(問) 今回の成長戦略の素案を拝見しておりますと、様々なメニューが並んでいるのですが、大臣としてこれを実現する上で課題となるものは何だとお考えですか。

(答) 特に、人工知能AIやビッグデータ、IoTというものは我々が想像しているよりも進歩が非常に速いです。ここで乗り遅れるともう取り返しのつかないことになります。この間、NHKの特集で、羽生名人とAI、人口知能との対局の話がありましたが、あれを見ても怖いなと思いました。ですからここで負けてはいけません。官民挙げてここを勝ち抜く。そうしないと日本が下請の国になってしまう。そういう気持ちを持って取り組んでいかなければならないからこそ、「第4次産業革命 官民会議」を設置する、第2ステージの鍵は第4次産業革命の実現である」という先ほどご紹介した総理の発言が、私にも肌身に伝わってきました。総理と同様、そのような気持ちでしっかりと成長戦略を進めていきたいと思っております。